歯科医師の診断と患者教育が肝要

口腔がんの早期発見

[米国]口腔がんについて，信頼のおけるアドバイスを与える役割を担うのは，患者の口腔内を日常的に診察し，口腔衛生指導を行っている専門家が好ましい。口腔がんの早期発見と早期治療に最も貢献しうるのは，歯科医師であると言える。

登録制の歯科医師リストを公開

米国では，一般市民向けに口腔がんの症状や自己検査の方法について情報提供することを目的とした「口腔がん自己検査」ウェブサイト(www.oralcancerselfexam.com)が公開されている。

がん治療においては早期発見がきわめて重要であり，口腔がんの早期発見は，自己検査によっても可能である。診療の際，歯科医師が患者に早期発見の重要性と自己検査の有用性を説明すると，患者の理解を得やすい。詳しい方法や必要な情報については同ウェブサイトで確認することができる。

自己検査の第一の利点は，口腔内の異常や口腔がんの早期発見に役立つ点である。また，第二の利点として，自己検査を行うことによって患者が自身の口腔について関心や理解を深めて，受診行動が促進されることが期待できることが挙げられる。

しかし，口腔がんの早期発見に最も貢献しうるのは，やはり口腔の専門家である歯科医師である。同ウェブサイトでは，地域別に歯科医師リストも作成しており，口腔がんの診断と治療に取り組んでいる歯科医師に登録を呼びかけている。DT

食物アレルギーを持つ子供が増加

米国CDCが調査

[米国]米国疾病予防管理センター(CDC)の調査により，米国における小児の食物アレルギーが10年前と比較して18%増加し，約300万人にも達していることが判明したと，10月22日付の*Reuters*に報じられた。

その他のアレルギー合併率も上昇

アレルギー反応は，口唇周囲のチクチクした痛みから蕁麻疹に及び，最も深刻なケースでは死に至ることもあるため，決して軽視することはできない。

食物アレルギーを持つ子供では，喘息などのアレルギー疾患を合併す

食物アレルギーの発現過程について詳しいことはほとんどわかっていない。ほとんどの場合は成長とともに治癒するが，一生アレルギーが残る場合もある。

なお，食物アレルギーの原因の9割を占めているのは，8種類の食物(牛乳，卵，ピーナッツ，木の実，魚，貝，大豆，小麦)であることがCDCの下部組織である米国保健統計センター(NCHS)によって示されている。男女における食物アレルギー発症率は，男児3.8%，女児4.1%であった。DT

Comment

口腔がんの早期発見は歯科医師の責任

昭和大学歯学部
顎口腔疾患制御外科学教室
教授 新谷 悟氏

まさに同感である。米国で歯科医師が口腔がんの早期発見に貢献するための再教育プログラムが開始されたと数年前に聞いたことがあったが，先を越された感がある。わが国でも再教育プログラムやウェブサイトでの口腔がんに関する情報提供が急務ではないだろうか。

ただ，日本でも地域歯科医師会や大学病院などを中心として，口腔がん検診が行われてきている。口腔がんは，早期がん(stage Ⅰ/Ⅱ)では5年生存率が90%以上で，ほとんど障害も残らない。しかし，進行がん(stage Ⅳ)では，5年生存率は50%程度で，術後に顔や頸に傷が残り「飲む，食べる，話す」といった口腔の機能も障害される。

日本において早期発見される口腔がんの割合は20%前後であり，この低い早期がん発見率の責任は，歯科医師にあるのかもしれない。記事にあるウェブサイトは，広く口腔がんを認識してもらうためのツールとして十分に評価できる。

歯科医師は口腔がんの早期診断を通して，国民の健康維持に責任を果たさなければならない。DT